

いう要因があり、財政調整基金を繰り入れなかったら、予算が組みなかつたというのが現実である。

今後は、交付税等は減少基調なので、こういう形になるのではないかと予測を立てている。

鳥獣害について

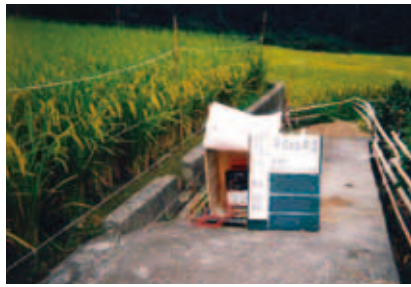
問

一・電気牧さく一〇〇台ほどのくらいの農地を囲い込むことができるのか。
二・鳥獣害で何が何匹、一頭当たり幾らか積算基礎を伺いたい。

答

一・総延長二万メートルを予定し関係農家一〇〇戸で農地面積二〇ヘクタールを予定している。
二・買い上げ価格はイノシシ一頭で銃器によるもの一万円、わなによるもの一万円、カラス・ウサギ各一羽五百円、ハクビシン・タヌキ各一頭二千元、ニホンザル一頭一万円を予算計上している。本年度の

捕獲予定はイノシシ三百五十頭で銃器によるもの二百五十頭、わなによるもの百頭、カラスは二百羽、ウサギは五十羽、ハクビシンは五十頭、タヌキは五十頭、ニホンザルは五頭を想定している。このほかに弾代、傷害保険料、駆除活動七団体にも予算計上する。



水田に設置された電気牧さく

観光ガイドブック作成委託について

問

観光ガイドブックは新伊予市を網羅したPR向けのガイドブックだと思いが、仕様・制作数量・設置場所等をどのように考えているか。

答

旧伊予市の伊予市八景実行委員会や伊予市の歴史文化の会、中山の文化財専門員、双海では歴史史談会の協力により、十二のジャンルに分けてデータ化、整理し、A5版百六十ページ、カラー印刷で三千部程度予定している。でき上がったものは、公共施設や教育関係等へは無償で配布する予定であり、一般向けには市内の書店や交流施設等に置き販売したいと考えている。
なお、最終的なまとめは、伊予市の観光協会へお願いしたい。

自主防災組織結成支援補助金について

問

一・補助金の用途及び交付基準は。
二・結成後の対応は。
三・今回結成される組織数は。また、これで市内全域組織済みとなるのか。

答

一・ヘルメット、消火器、メガホン等の全体で使用できる資材である。金額は五十世帯以内四万円、百世帯まで七万円など世帯数別にしており、最高額は六百一世帯以上の三十万円である。
二・消防等との勉強会、住民による地区の防災マップづくり、訓練などを自主的に行える組織になるよう指導する。
三・組織数は、地域の実情に応じてということである。六十七を予定、これで市内全域である。



米湊A-1自主防災資材倉庫

答

調査するのか。
二・間伐材を利用した魚礁は効果があったと聞いている。今後、検討してはどうか。
一・魚礁効果調査については本年度上灘で一カ所、下灘で二カ所調査予定である。上灘では、平成十五年度実施したコンクリート魚礁と平成十六年度は、間伐材を利用した魚礁が調査対象である。
二・現段階では具体的な計画はないが、今後、鋭意検討したい。

魚礁効果調査委託料について

問

一・魚礁効果調査について、どの場所に設置された魚礁を



間伐材を利用した魚礁の設置風景